

わ が 街 わ が 故 郷

日本トムソン株式会社と鎌倉市

No. 40

はじめに

鎌倉は東京駅より南西にJR横須賀線で1時間ほどの位置にあり、温暖な気候に恵まれ、湘南の海とともに歴史、文化遺産の町として広く知られています。この鎌倉の地に、当社の鎌倉工場が1964年(昭和39年)に開設され、その後、1972年(昭和47年)に技術研究所を、1994年(平成6年)に技術開発部門と技術研究所を総括する開発センターを併設し、今日に至っております。この鎌倉について紹介させていただきます。

鎌倉の紹介

鎌倉はガイドブック、テレビで紹介されることの多い地ですが、代表的な見所の多い散策コースに沿ってご一緒に見ていきたいと思えます。スタートはJR横須賀線の北鎌倉駅で、鎌倉駅までお寺を見ながらのんびり歩いていきます。

円覚寺(えんがくじ)

北鎌倉駅からすぐのところ、臨済宗円覚寺派総本山で鎌倉五山第二位の円覚寺があります。北条時宗が蒙古襲来に殉じた両軍死者の追善のために、宋の禅僧、無学祖元(むがくそげん、仏光国師)を開山に迎え、1282年創建。境内は総門・三門・仏殿・方丈・仏日庵などがほぼ直線上に並ぶ典型的な宋の禅宗様式です。夢窓疎石(む

そうせせき、国師)も住持しました。無学祖元像、墨跡(ぼくせせき)、白衣観音図(びやくえかんのんず、伝 牧谿(もっけい)筆)、創建当初(1301年)の国宝の梵鐘など、多数の文化財が伝えられ、味わい深い塔頭(たっちゅう)の多いお寺です。

方丈(ほうじょう)

「方丈」の名は、室の大きさが一丈四方であることに由来します。本来は住職の居室ですが、多くの宗教行事がここで行われます。京都の庭とは趣の異なる方丈庭園があります。

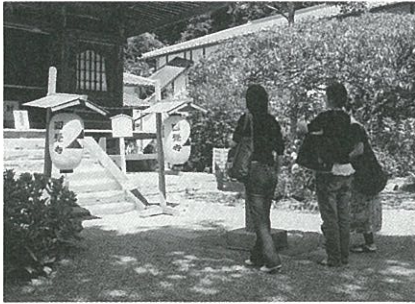


円覚寺 方丈庭園

仏日庵(ぶつにちあん)

北条時宗の廟所として創建。多くの作家に愛され、川端康成は「千羽鶴」で庵内の茶室での茶会を、大佛次郎は「帰郷」で木蓮と枝垂れ桜を著しています。明るく静か

な塔頭で、なにかほっとする小さなオフ・タイムです。抹茶と落雁がいただけます。



円覚寺 仏日庵

円覚寺は、島崎藤村や夏目漱石などの作家の滞在した寺としても知られ、夏目漱石は帰源院(きげんいん)に参禅したときの体験を「門」、「夢十夜」に著しています。松嶺院(しょうれいいん)には有島武郎が滞在しています。

円覚寺を後に鎌倉駅方向に向かいます。途中には民芸・陶芸店が多く、のんびり覗いてみるのも楽しいと思います。すぐに東慶寺です。

東慶寺(とうけいじ)

“縁切寺”、“駆込寺”として知られてきました。かつては尼寺として栄え、3年修行すれば離縁できる「縁切寺法」で多くの女性を救い、明治4年に廃止されるまで約600年にわたり受け継がれてきました。明治36年に臨済宗円覚寺派の寺となりました。境内の松ヶ岡宝蔵では多数の文化財が展示され、思わぬものが見られます。非公開ですが、仏教学者で、禅を世界に広めることに力を注いだ鈴木大拙(すずき だいせつ)ゆかりの「松ヶ岡文庫」があります。多くの文化人の眠る寺としても知られ、境内には四季折々の花が咲き、深い木立の凜としたお寺です。冬枯れの頃もお勧めです。

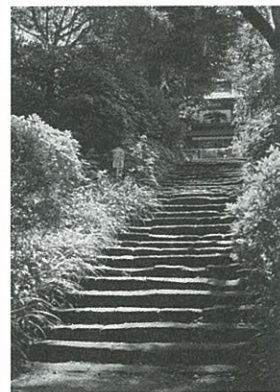


東慶寺 境内

東慶寺を出て、しばらく行くと浄智寺です。このあたりは洒落た喫茶・和洋食の名店が並んでいます。

浄智寺(じょうちじ)

29才の若さで死去した北条時頼の3男宗政の菩提を弔うため、1281年に創建された鎌倉五山第四位の禅刹。火災、関東大震災で多くの堂宇を失い、現在は三門、二階に鐘を下げた唐様の鐘楼門、仏殿、方丈、客殿などが伽藍を形作っています。苔むした石段、竹林や鬱蒼とした杉木立など、独特の侘びたたたずまいの小さな静かなお寺です。かつては200人以上の僧侶を擁した大寺でした。鎌倉ではお勧めのお寺です。



浄智寺

次は紫陽花(あじさい)で名高い明月院です。明月院への道は甘味処の多い道です。

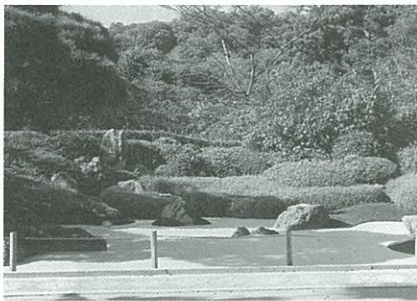
明月院 (めいげついん)

創建は1160年。もとの近くにあった北条時宗が創建した禅興寺の支院の首位でした。禅興寺は足利義満の時代に関東十刹の一位となりますが、明治初年に廃絶、明月院だけが残り現在に至っています。

明るく柔らかな空気のお寺ですが、臨済宗建長寺派の見どころの多い禅刹です。花の寺としても有名で、枝垂れ桜、花菖蒲、水仙、椿、蠟梅(ろうばい)など、いつ行っても花が見られ、特に初夏の参道から境内を覆う紫陽花は見事で、“アジサイ寺”と呼ばれています。写真は本堂・円窓から見た後庭園と、本堂前の枯山水庭園です。



明月院 円窓から見た後庭園



明月院 枯山水庭園

明月院を出て鎌倉五山第一位の建長寺に向かいます。途中には珈琲・工芸店が点在し、ここで一服も良いでしょう。

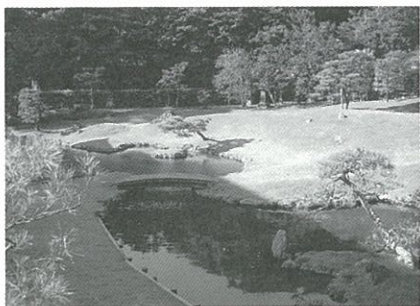
建長寺 (けんちょうじ)

臨済宗建長寺派の大本山。鎌倉幕府第五代執権北条時頼(ほうじょう ときより)が、中国の禅僧蘭溪道隆(らんけい どうりゅう)を開山に迎え1249年に創建を開始し、1253年に落慶しました。日本で初めて純粹の宋朝禅を移入し、鎌倉禅刹の中心として大いに栄えました。伽藍配置は総門・三門・仏殿・法堂が中央の直線上に並ぶ、中国禅院の様式を伝えています。山頂には奥の院・坐禅窟・半僧坊があります。円覚寺開山の無学祖元も住持しました。教科書などでおなじみの北条時頼坐像(鎌倉時代、13世紀)、時頼、蘭溪らの銘のある創建当初の国宝の梵鐘(1255年)、観音図(伝 祥啓(しょうけい)筆)、墨跡、中国陶磁などの多数の優れた文化財が伝えられています。これらの一部は、後で紹介します鎌倉国宝館で展示されることがあります。また毎年11月3日前後に、円覚寺とともに行われる「宝物風入れ」では一般公開されます。これは見ごたえがあります。国宝、重要文化財がガラスケースなし、鼻息のかかる近さで見ることができます。(くしゃみでもされたら、どうするんでしょうね)

また、建長寺はけんちん汁(建長汁)の発祥の地としても知られています。これは、開山の蘭溪道隆が野菜の皮やヘタを無駄にしないようにと作った料理が今に伝えられたものです。豆腐を崩して入れるのは、誤って落とした豆腐を



建長寺 仏殿



建長寺 方丈庭園

使ったことからきています。

写真は、仏殿とその手前は蘭溪道隆の手植と伝えられる樹齢750年の柏楨（びやくしん）、方丈庭園です。

そろそろ足も疲れてきましたが、建長寺を出て鎌倉駅方向へ。ほどなく右に神奈川県立近代美術館と別館が見えてきます。本館はすぐ先の鶴岡八幡宮境内にあります。その先はガイドブックなどでよく紹介される小町通りです。

神奈川県立近代美術館

鶴岡八幡宮境内に、1951年（昭和26年）11月に日本で最初の公立近代美術館として開館しました。さらに、1984年（昭和59年）7月に別館、2003年（平成15年）10月に葉山館を開館しました。

収蔵作品は総数約9,500点を数えます。開館当初、作品はまったく存在せず、作品購入費もいっさい予算計上されていなかったことを思えば、これは決して少ない数字ではありません。随時開催される特別展も注目されています。

近代日本の油彩画が収蔵作品の中核をなしています。明治期の高橋由一、黒田清輝、大正期の岸田劉生、梅原龍三郎、大正末から昭和初期の佐伯祐三、国吉康雄、三岸好太郎、次の世代の松本竣介へと、広がりを見せています。特に松本竣介については代表作の「立てる像」が収蔵されています。日本画では山口蓬春、片岡球

子、中島千波、高山辰雄らの代表作を含め、他、多数の版画、彫刻が収蔵されています。

この近くの鎌倉の美術館として他に、鎌倉市立鎌倉国宝館、鎌倉市鏑木清方（かぶらぎきよかた）記念美術館があります。

鎌倉市立鎌倉国宝館

鶴岡八幡宮境内の右手にあります。1928年（昭和3年）に設立された歴史・美術博物館で、鎌倉の文化財を保管、展示しています。1923年（大正12年）の関東大震災により、多くの鎌倉の社寺が被災し文化財の損失も甚大でした。こうした不測の災害から貴重な文化財を保護するため、また鎌倉旅行の人々がそれらの社寺を廻らなくとも概観することができるよう一堂に展示する、というのが設立の趣旨です。したがって、鎌倉の社寺に伝わる文化財のうち、代表的な作品が寄託、保管、展示されています。

事業としては常設展のほか、特別展、それに伴う講演会を開催しています。また、鎌倉の文化財を調査、研究し、その成果の公刊も行っています。

鎌倉市鏑木清方記念美術館

小町通りの中ほど、小路を曲がった閑静な住宅地の中に、端正な和風建築の当美術館があります。ここは日本画家、鏑木清方の旧居跡で、1994年（平成6年）に作品と土地建物が鎌倉市に寄贈され、1998年（平成10年）に記念美術館として開館しました。

所蔵作品の「一葉女史の墓」は初期の代表作で、「たけくらべ」の主人公公美登利が作者樋口一葉の墓を訪ねるといふ幻想を描いたものです。この作品には、いくつかの謎が仕掛けられています。ご覧になる機会がありましたら、ぜひこ

の謎を解いてみてください。他、スランプを脱する転機となった「朝涼（あさすず）」、明治20年代の東京の下町を描いた画卷「朝夕安居（ちょうせきあんきょ）」など多数の作品が所蔵されています。

鎌倉の散策もそろそろ終りになりますので、お楽しみのお土産を紹介したいと思います。第一に挙げられるのが伝統工芸の“鎌倉彫”です。鎌倉彫は中国の堆朱（ついしゅ）が原形で、鎌倉仏師が源流と伝えられています。黒漆（くろうるし）の上に朱漆で装飾したもので、使うほどに上塗りの朱漆（しゅうるし）がすり減り、下塗りの黒漆が透けて味わいが出てきます。現在、伝統の流れをくむのが後藤家と三橋家です。鶴岡八幡宮の境内入口近くに、後藤家の「博古堂」があります。

次のお土産は和菓子。ここ小町通り付近には和菓子の名店が3店、季節の味を競っています。葉山の老舗料亭「日影茶屋」直営の和洋菓子店もここに 있습니다。それぞれ東京でも京都でもない、鎌倉の味・意匠と思います。

通りを出るとすぐにJR鎌倉駅です。時間があれば、江ノ電（江ノ島電鉄）で夕日の稲村ヶ崎、七里ヶ浜、江の島を見ながらのんびりと藤沢に出るのも良いでしょう。

鎌倉は四季折々それぞれに風情があり、薪能（たきぎのう）、流鏝馬（やぶさめ）、花火、歳の市（としのいち）などの風物詩も賑わいを見せます。ぜひお越しくください。

（日本トムソン株式会社 開発センター 谷津 孝）